

## 11 番（小川義昭君）

ぜひ、地域活性化センターに人材派遣、この制度の活用をぜひお願いしたいなというふうに思います。

なお、やっぱり私はこの地方創生政策というのは、来年度、2019年度が期限。この期限が終了しても、現安倍政権が続く限りは、このことが中心的なテーマとなり、やはり今後も重要な取り組みになるかなというふうに思います。国は、やはり地方が活性してこそ国があるというような考え方に基づいておりますから、この考え方、地方創生というこの制度、政策、これはこのままいくんじやないかなど。この地方創生政策、これが意図しているところは、詰まるところは人口減少の克服が一つと、それからあと一つは、地域経済の活性化、この2点にあるのではないかなというふうに思います。

どうか市長におかれましては、この白山市が、活力があり、魅力があり、将来性がある、そういった希望の持てるような、そのようなまちづくりに向けて、しっかりとかじを取っていただきたいというふうに思います。

それでは、次に、白山市本庁舎と公立松任石川中央病院の間の土地利用策に関して質問いたします。

一昨年の12月会議において、本庁舎の南側と公立松任石川中央病院の間を医療・福祉・介護、さらには行政の健康福祉部門を統合した施設として整備するほか、国・県の出先機関も統合した合同庁舎などの都市整備が行えるような利用策を提案し、その可能性について、山田市長にたどしました。

それに対し、市長は「現況からも本地区は市街化区域編入が必要な地区と認識している。来年度より都市計画マスタープランの改定作業に入り、この土地利用としては、公共スペースと考えるのが自然であり、倉光町や地権者の意向もその方向である。今後地域の意向を尊重しつつ、公共スペースとして長期的視野で有効活用を図りたい」と答弁されています。

昨年度から、都市計画マスタープランの改定作業に入っているタイミングを考慮すれば、私が投げかけた本庁舎と公立松任石川中央病院の間の土地利用策の問題についても、そろそろ方向性を打ち出さなければならない時期が到来しているものと考えます。

なお、この質問もまた創生総合戦略との関連があり、国が示すその主な施策の一つに都市のコンパクト化と周辺等の交通ネットワーク形成が掲げられています。

これに沿う形で、本市の基本目標にも「平野部と白山ろく地域の安全・安心な暮らしを守りつなぐ」とあり、その施策の基本的方向として、医療・福祉の充実と健康づくりの推進が掲げられています。

そこで、再度提案いたします。

医療・福祉、公共施設の再編、中心市街地活性化などのまちづくりに向けたコンパクトシティの推進を図るため、本庁舎と公立松任石川中央病院の間を、医療・介護・福祉・教育等を集約・誘導して人口を集積し、まちの持続可能性の確保を図るための拠点エリアとしてはいかがでしょうか。

その拠点エリア内に、病児・病後保育所、障害児保育所、学童保育、児童センター、健康センター、社会福祉協議会を初めとする行政の健康福祉部門などの施設、機能を設置、統合することにより、私は雇用機会の創出・支援を図ると同時に、行政・医療機関・大学などとの連携強化を図ることができるはずと考えています。

今、指摘した諸施設、機関などをコンパクトにゾーニングすることによって、行政と医療、福祉、健康機関及び大学が一体となり、雇用の機会がふえるだけでなく、多くの人が集い、にぎわいも創出され、より一層の行政サービスを市民の皆さんに提供できる拠点エリアになるのではないのでしょうか。

公立松任石川中央病院は、30年が経過し、施設の老朽化は否めず、建てかえの時期が近づいています。これを機に中央病院としては、10年先を見据えた病院としての役割を果たすために、ハブ機関としてのサービス提供体制の確保を目指した、地域医療安心安全プロジェクト構想の策定を検討しているとお聞きしています。係る構想の策定に際しては、当然のことながら、行政、医療企業団、福祉機関などと協議検討しなければなりません。本市の10年先を見据えたまちづくりを構想なさるのであるなら、市役所庁舎と病院間の土地利用を真剣にお考えいただき、中心市街地における健康で笑顔あふれる元気なまちづくりの拠点創生の決め手の一つとして、新しく2020年度から策定される都市計画マスタープランに、ぜひ組み入れていただきますよう提言いたします。御見解をお聞かせください。